

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年5月28日

【2018年5月19日～2018年5月25日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドルおよび対円で上昇しました。また、2年国債金利は低下しました。米ドルおよび米国債券利回りの上昇が一般し、新興国市場に対する警戒感が和らいだことがこうした動きの背景となりました。また、ブラジル中央銀行が通貨スワップによる米ドル売りの為替介入額を増額したことも、ブラジル・レアルの下支えになったとみられます。

22日（現地、以下同様）には、15日から16日にかけて行われたCOPOM（金融政策委員会）の議事録が公表されました。このときのCOPOMでは、市場では0.25%ポイントの利下げが見込まれていたのに反して政策金利の据え置きが決定されました。議事録では、次回以降のCOPOMでも現状の政策金利の水準を維持するのが適切との見通しが示され、金融緩和サイクルが終了したとの当社の見方を裏付けるものとなりました。なお、23日に発表されたインフレ率（IPCA-15）は市場予想を下回るなど、インフレ率は依然低位で推移しています。

21日以降、ブラジルではトラック運転手などによるストライキが続いています。ディーゼル価格の値上げを受けて、トラック運転手が道路をふさぐなどして対抗し、国内の物流に影響が出ています。これに対して国営石油会社ペトロbras社がディーゼル価格を引き下げると発表するなど、政府も対応策を打ち出しているものの、事態の収拾には至っていない状況です。

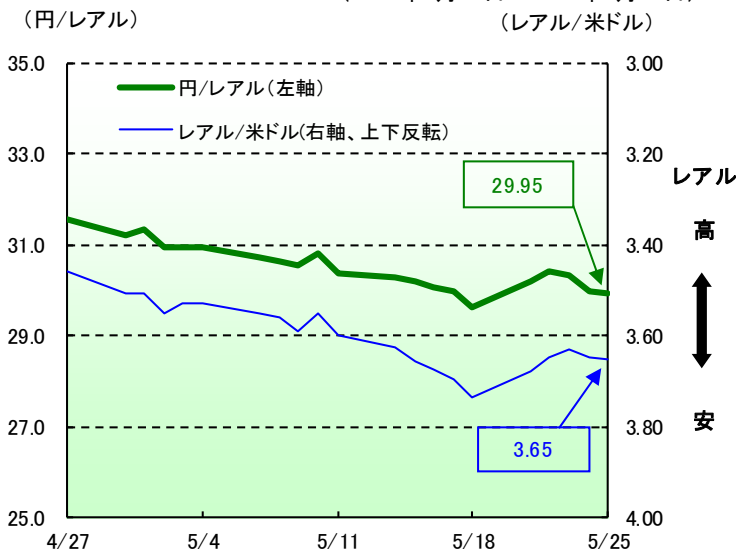
【2】今週の見通し

今週は、29日に4月の失業率が発表されるほか、30日に1-3月期のGDP（国内総生産）が公表される予定です。また、大統領選の世論調査も1件発表される見込みです。

その他には、前述のストライキが早期に収束するかが注目されます。ストライキに対して軍が出動するなど事態は未だ沈静化しておらず、この状況が続けばブラジル経済にも悪影響を及ぼすとみられます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

（2018年4月27日～2018年5月25日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

（2018年4月27日～2018年5月25日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management